

## 審査の結果の要旨

氏名 南 知賢

本論文は、韓国における開港都市を対象に、産業遺産の再活用を通じた都市保全のあり方と、連係的な歴史的な都市景観の保全再生の手法を空きからにすることを目的としている。対象として韓国最初の開港都市の一つである仁川をとりあげ、とくに都心区である中区と周辺区である東区における産業遺産の発見、活用プロセスの相違に着目して統合的な都市保全の方法論を明らかにすることを目的としている。開港都市は、各種産業がいち早く立地し、多様な遺産を保有しているため、産業遺産の研究に最適である。

論文は、8つの章から成っている。

第1章では、研究の目的・方法を明らかにするとともに、本論文で用いる主要概念の定義をおこない、本論文の構成を示している。

第2章は、韓国の開港都市における産業遺産の現況一般を論じる章である。韓国における開港の歴史を振り返り、開港都市における産業集積の状況を示し、そこにおける統合的な産業遺産保全の重要性を論じている。

第3章は、日本、中国、韓国の開港都市の歴史を相互に比較し、産業遺産が複数存在しつつ、相互に関連している状態を明らかにし、その統合的な保全の課題を明らかにしている。

第4章は、韓国の全体の状況および仁川の状況を論じている。韓国の文化財保護の歴史を示し、その中における産業遺産保全の制度化の遅れを指摘し、2000年以降の新しい動きを詳細に紹介している。これらの事情を背景として、仁川の産業遺産保全の現況と課題を明らかにしている。

第5章は、仁川の都市発展の歴史とその中における仁川港の位置づけ、仁川史における文化財保護政策の動向とその中における産業遺産保全の位置づけ、現在の仁川市における保全と開発の相克の現状を明らかにしている。

第6章は、仁川の開港都市部分の中でも主要な位置を占める中区とそれに隣接する東区の保全施策の相違について詳細な現地調査をもとに明らかにすると共に、中区における政府主導の産業遺産保全の施策と東区における住民主導の産業遺産および生活遺産保全の活動の対照的な性格を論じている。特に、開港都市の産業遺産の場合、労働運動や生活改善運動などの争議および花街などの社会問題が輻輳しており、産業遺産単独での保全は他の社会的側面の無意識的な切り捨てにつながるといった問題を抱えるという点について詳細に

明らかにしている。

第 7 章は、第 6 章で明らかにした問題点に対処するためには、産業遺産に偏らない全地域的な遺産の洗い出しとその評価に基づく統合的な地域全体の保全施策を立案すべきであるという点を明らかにし、そのもとで統合的な保全施策の具体的なあり方について提起している。

第 8 章は、これまでの論述をもとに結論を論じている。とりわけ住民運動や都心空洞化といった問題とも重なる統合的な都市保全施策を立案することが必要である点を指摘し、産業遺産の保全活用問題はそうしたより広い政策課題の中で考察されるべきであると結論づけている。

以上、本論文は、韓国における開港都市の産業遺産の問題を初めて総合的に論じているのみならず、今後の産業遺産保全において、都市における労働問題や居住問題など、より総合的な都市問題を含む全体の課題群に対する施策の一翼を担うものとして立案されるべきであるということを実証的に明らかにしている点で有用である。今後の韓国の開港都市保全施策のみならず、ひろく東アジア都市の産業遺産保全政策立案に資する論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。